

急傾斜地崩壊対策事業に関する住民意識調査について ～兵庫県豊岡市の事例～

財団法人 砂防フロンティア整備推進機構 ○長友 幹
兵庫県豊岡土木事務所 木本 和彦

1. はじめに

現在、急傾斜地崩壊対策事業では、ソフトおよびハード対策による防災面の強化に加え、よりよい環境や景観の保全、創造といった観点から、斜面を個別に整備するのではなく、地域毎にまとまりを持ったものとして整備する事を目標としている。

これを受けて兵庫県豊岡市において、「安全」、「環境」、「景観」、「歴史・文化」、「利活用」の5つの視点を踏まえた斜面整備を目指し、「豊岡市『わがまちの斜面整備構想』」を検討中である。この構想においては「地域住民が満足できる斜面」を基本に5つの視点間のバランスを考えており、平成10年2月には住民意識をより正確に把握するためにアンケート調査を実施した。

本論は、この調査の結果から、「わがまちの斜面整備構想」に関してどのような留意点が出てきたかについての検討を行ったものである。

2. 調査対象地域

調査の対象とした豊岡市は、人口47,790人（平成9年現在）、兵庫県北東部に位置し、北は日本海に面している。市域を南から北へ流れる円山川が、しばしば水害を引き起こしてきたため、宅地は山すそに張り付いていることが多いが、今までに大規模ながけ崩れ災害は少ない。なお、大正14年5月には、震度6を記録した北但馬地震により、死傷者717名という大災害を被った。急傾斜地崩壊危険箇所



図-1 豊岡市の位置

3. 調査の概要

豊岡市民の声を構想に反映させることを目的に、20歳以上の豊岡市民37,022人のなかから、市内全122区に平均6人ずつ、がけ地の近くやがけ地がよく見えるところに住んでいる人を中心として区長に抽出していただいた。配布及び回収は、豊岡市の協力を得て各区長に依頼した。また、配布枚数はがけ地の多い地区の方が多めとなっている。回収は約2週間かけて行い、全配布数729通のうち、88.9%の647通が回収された。

設問内容は、回答者の性別、年齢、職業等のほか、最も近いがけ地の位置やがけ崩れ対策工事を目にする頻度、環境、景観への配慮を含めてがけ対策に関する意識とした。また、がけ地が近くにある人については、避難に関する設問にも回答をお願いした。

4. 調査結果

回答者のプロフィール

- ・回答者の9割を男性が占める結果となった。年齢で見ると、50歳以上の方が約7割で、豊岡市の年齢構成と比較して高齢者の割合が高く、職業構成から比較すると、豊岡市の構成よりも第一次産業が多い。また、居住年数は約9割が20年以上である。

がけ地の位置と視認頻度について

- ・すぐ裏ががけ地であるという人が回答者全体の5割強を占めた。また、がけ崩れ対策のための施設をほとんど目にする機会のないという人は1割にも満たない。

現在実施されているがけ崩れ対策工事について

- ・がけ崩れ防止のための施設に関して、半数近くがおおむね良いと感じている一方、4割近くの方が安全面に不安を感じている。またそれに次いで、周囲の景観と馴染んでいないという回答が見られた。（複数回答）

今後のがけ崩れ対策工事について

- ・ 人家の裏山に関しては、約半数がとにかく早くがけ崩れ防止のための施設を設置して欲しいと答えている。また、積極的に利用（遊歩道、広場など）したいと回答した人は7割を超えた。（複数回答）
- ・ がけ崩れ防止のための施設に対する具体的な工夫については、約半数が自然石など使った凹凸感の工夫、約3分の1ずつが壁面へのデザイン、つたなどによる緑化、湧水の利用を回答した。（複数回答）
- ・ 8割以上が環境、景観への配慮を求めている。
- ・ がけ対策工事实施に際しての事前協議や話し合いへの参加は、9割弱の人が参加の意思があると回答しているが、そのうち6割強は機会があれば参加したいという回答である。

警戒避難について

- ・ 避難経験の有無に関わらず、がけ地近くの人すべてを対象にした場合、避難を決定する情報として、テレビ、ラジオ等公共の広報機関よりも、実際のがけ地のようすや地震のゆれ、雨の様子などを挙げる人が多かった。

その他

- ・ 自由回答欄では、採択基準に達していなくても工事して欲しいという声や具体的な工夫の提案など、回答者の3分の1からの記入があった。

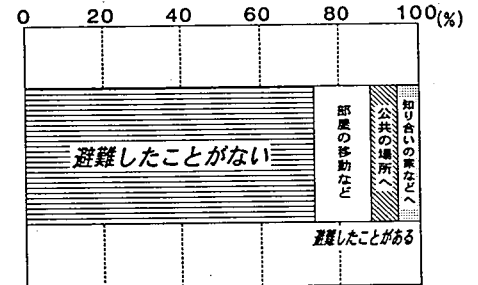


図-2 がけ地近くの方の避難経験

5. 考察

住民意識調査の結果を受けて、豊岡市における斜面整備構想検討に際し、以下の内容が考察された。

- ・ 対策済みの斜面については、災害弱者といわれる高齢者以上に若い人で不安を感じている割合が高い。そのため特に若い人のためには、普段の生活では安心してもらうと共に、いざというときには協力してもらえよう、がけ崩れの予兆現象や避難経路を知って頂くための講習会などが必要であると思われる。また、すぐ近くからよりも、やや遠くから見ると家の背後となって目立たなくなるという豊岡市の特徴が反映された結果であることがわかる。
- ・ 現在でも景観になじんでいないという人は多いが、今後豊岡市では、遠くからでも目立つような現場打自在法枠工の増加も予想されるため、一層の景観への配慮が必要となる。
- ・ がけ崩れ防止のための施設に対する工夫として、自然石の利用を望む声は全体的に多いが、湧水の利用施設の設置など各地域でばらつきが見られるものもあるため、実施する際は、地域毎の要望に応じた工夫が必要となる。
- ・ 今後の斜面整備においては住民の方の協力が不可欠であるが、がけ対策工事实施に際しての事前協議や話し合いへの参加に関して機会があれば参加すると回答した人が多かったことから分かるように、斜面整備構想においても住民の皆さんに参加して頂けるような機会を設けることが大切である。
- ・ 自由回答からは、急傾斜地崩壊対策事業の採択基準に対して、理解が不十分であると思われる回答が多く見られ、今後事業に対する理解を求めていく努力が必要である。

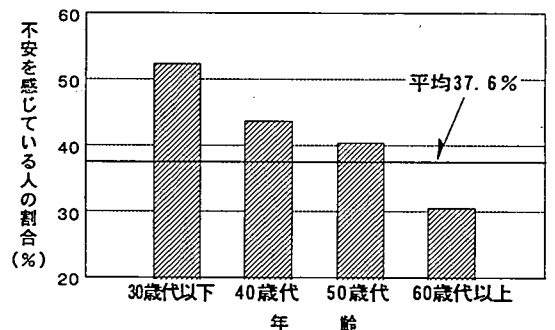


図-3 対策工に不安を感じている人の割合

6. まとめ

今回のアンケート調査から、これまでの資料収集や現地調査では把握しきれなかった住民の意識が浮かび上がった。同様に他市町村における斜面整備構想においても、住民意識調査によって重要な情報が得られるものと考えられる。住民意識調査としては、現地調査での聞き取り調査や地元有識者を交えた懇談会など様々な手法があるが、アンケート調査は、大人数を対象として、幅広い意見を収集できるという利点があり、今後の斜面整備構想策定においては有効な手法となるであろう。

最後に本調査の実施にあたってご協力頂いた豊岡市民の皆さん、また多くの助言をいただいた豊岡市をはじめ、兵庫県の関係各位に深く感謝いたします。